

学校関係者評価委員会 22年度 評価結果報告

日産京都自動車大学校 学校関係者評価委員会

1. 開催日時

2023年6月22日(火)13:00~15:00

2. 開催場所

日産京都自動車大学校 校舎棟1階セミナーA教室

3. 出席者

- (評価委員) 1. 団体代表 矢川賢治(京都自動車整備振興会 専務理事) / 坂田博則(京都府自動車車体整備協同組合 事務局長)
 2. 高校代表 中森耕平(京都府立田辺高校 自動車科学科長)
 3. 卒業生代表 西村 剛(第1回卒業生 正和自動車販売株式会社 会長)
 4. 企業代表 川畑利彦(近畿日産株式会社 部長) / 三浦直也(京都日産自動車株式会社 執行役員) / 藤本正昭(日産大阪販売株式会社 BP事業部長)

(学校事務局) 川嶋則生(校長)、鳥井英雄(教頭)、吉澤英行(学務部 課長)、橋本健(学務部 課長)、清水昭一(教育部 課長)、大村哲嗣(教育部 課長)
 上記以外の参加者 佐藤友彦(自動車課 課長代理)、井上恵太(自動車課 課長代理)、遠藤博之(一級課 課長代理)、当麻範嗣(教務課 課長代理)

4. 議題

- 校長挨拶
- メンバー紹介(評価委員、学校事務局)
- 2022年度の活動振り返り
- 意見交換

5. 議論

- 概況: 今回は、FY22の様々な取組結果についてご理解を頂き、また、各委員から貴重な意見・示唆を頂くことができました。これを基に、課題に取り組んでいく。
- 項目別評価と主な意見、及び それに対する学校の受止め ※意見の番号と、受止めの番号は、リンクしている。

承認	基準	項目	主な意見
承認	1. 教育理念・目標	主な課題	・一級工学科の学生育成及び車体科教員の先進技術の技能取得を図る必要がある。 ・FY23/4入学者数は、募集活動が結果に結びつかず、過去最低になった。FY23は、更なる募集を強化する必要がある。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	2. 学校運営	主な課題	・「決定基準」の運用について経費処理を軸に内部監査を実施、その結果を受けて、運用を整備していく。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	3. 教育活動	主な課題	・国家資格指導をするに当たり、学習障害と考えられる学生が増加しており、通常の指導では対応できない昨今の状況である。個々の学生の合った指導方法を検討し、取り組む必要がある。 ・自動車整備・カスタマイズ科の車両製作は、人財育成に大きく寄与している。また、クオリティが年々向上して来ており、教員の車両製作スキルの向上も課題の一つである。 ・車体整備業は、電子制御整備主任者の資格が大いに必要になる為、BR科の学生に講習を受講させた。しかし、合格率が低く、FY23の課題の一つとなる。 ・ICT授業を導入して2年目になるが、学生が所有するChromebookの更なる活用及びICT授業の充実を図る必要がある。 ・一級工学科は、学生フォーミュラーの日本大会で準審査は、時間オーバーになったが、全項目をクリアした。FY23は、動的審査に進み上位を目指す。 ・国際自動車整備科(留学生課程)3年課程を開設し、2年目になった。様々なことを搬送することによって、最善策として、留学生独立課程の「国際オートメカニクス科」を開設することになった。
		主な意見	・ICT授業は、自宅での見直しは、可能か?(川畑委員) ・ICT授業は、個別学習は非常に良い。重点課題に取り組ませる、見えない部分が見えるようになっていく。(藤本委員) ・ICT授業は、成績は向上したか?(三浦委員) ・田辺高校では、iPadを試用しているが、台数が少なく上手に活用できていない(中森委員)。 ・中学校から使っている為、直ぐ馴染む。(中森委員) ・実技では、応用が利かない。分かったつもりでいる(中森委員)。
		意見の受止め	・国際オートメカニクス科は、日本人との接点が少ないと思いますが、日本語力(コミュニケーション力)は、大丈夫ですか?(三浦委員) ・留学生のインターンシップは、受け入れることも可能です(三浦委員) ・京都日産への就職希望率が下がって来ている。日産版社の卒業生の口コミの影響が大きいと考える(三浦委員)
		意見の受止め	・電子装置整備主任者の講習は、是非、今後も継続して欲しい(藤本委員) ・車体整備業は、職人であり食いっぱぐれない職業だと考える(藤本委員) ・自動車整備・カスタマイズ科のカスタムカーづくりは、自信に繋がっている。(藤本委員) ・先進技術の車は、知識がないと触れないので、授業に入れて貰うことは、助かる。(坂田委員)
承認	4. 学修成果	主な課題	・22年度では、ガソリン3名が不合格になった。留学生の日本語力、日本人の学力不足が考えられる。23年度は、確実な対策を構築し、実行する必要がある。併せて、国家1級整備士は、4名が不合格となった。3名が学力不足、1名が本番に弱い学生である。早期に底上げをする必要がある。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	5. 学生支援	主な課題	・就職を希望する学生は、全員内定した。 ・日産販売会社の整備士増強の為に、募集方を強化し、総人数の確保が今後の課題である。
		主な意見	・日産大阪の車体整備工場は、人員不足である。自動車整備・ボディリペアー科には、留学生は居るか?若い子の受け入れも必要と感じている。ミャンマーから受けれている企業もある。(藤本委員) ・車体整備でも、コンサルトを使用する必要がある。(藤本委員) ・5年後10年後のことを考えて、留学生も多くなりたい(藤本委員) ・民間整備工場への就職先も可能か?(西村委員)
		意見の受止め	・自動車整備・ボディリペアー科には、留学生が殆どいない。但し、日本人も車体整備業への就職が求人に関係上、苦慮している。 ・全国規模で車体整備工場を持っている日産版社を調査し、就職先の拡大を図る。 ・民間整備工場への就職も勿論可能である。
承認	6. 教育環境	主な課題	・投資効率の高い計画とする為、教科担当教員と相談の上、優先順位をつけて見直ししていく。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	7. 学生募集・受入	主な課題	・23/4入学者数が過去最低で非常に厳しい結果となった。 ・日本人の獲得が年々厳しくなる状況から、留学生の獲得を強化する。 ・OC参加者は、日本人は増加したが、留学生共に減少。応募率も低下した。(留学生は入国の遅れより日本語力が伸びず、卒業期が遅れ応募率が大きく低下した)
		主な意見	・トヨタ校、ホンダ校に比べて魅力が低いから募集が、減少したのか?(三浦委員) ・企業側も人員不足で危機感を感じている。(三浦委員) ・EVなどの日産の先進技術を訴求し、PRIに繋がれば良いのではないかと、是非、協力したい。(三浦委員) ・P8のFY22名簿数の数値に食い違いがあるのでは?(矢川委員) ・自動車離れが目立つが、30名中、28名が自動車関係希望している。1名は、日産校に入学した。(中森委員) ・日産校への興味は高い。(中森委員) ・モノづくりに参加した学生は、日産校への興味が高くなる。良い、訴求になると思う(中森委員)
		意見の受止め	・民間整備工場からの入学者を獲得する為に、日産校との同行訪問も可能である。(西村委員)
		意見の受止め	・営業活動で負けたと推察している。対策として、販売会社の店長クラスをリクルーターとして増員し、強化を図っている(川嶋) ・同行訪問は、是非、実現したい。後日、相談させて欲しい。(橋本) ・昨今、中学、高校からの職場体験授業が増えて来ている。良い、訴求方法を考えている。(鳥井) ・数値の訂正をに取り組む(橋本)
承認	8. 財務	主な課題	・学生応募が漸減していることが最大の課題。上述の「学校の将来構想」「教育の質の向上」「学生募集活動」等の成果から、選ばれる学校になれるかが鍵。 ・中期計画ではコストを抑えた運用と総学生数の維持が必要。早期に募集を伸ばす方策検討が必要であり、事業計画に合った学生数の確保が大きな課題。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	9. 法令等の遵守	主な課題	・違法改造、道交法に関するもの、未成年の飲酒、喫煙。更には昨今問題となっている違法薬物防止についても周知徹底の為に活動を継続していく。また、特殊詐欺でのアルバイト名目での「出し子」「受け子」の役割を引き受けてしまわないような注意喚起も行っていく。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	10. 社会貢献	主な課題	・学園祭等を利用して高校・企業・団体・地元地域との関わりを深くすることで、地域活動への参画を増やし、社会性を校内に取り込み教育の質を向上することに繋げていく。 ・地元中学校との繋がりを深めて、中学校での授業の一部を当校学生が協力できるようになった。年々、中学校からの依頼、高校の職場体験の依頼が増えて来ている。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
		主な課題	2024年度に「国際オートメカニクス科」を開設することになった。留学生独立課程の為、日本人学生との交流が減少する為、対策を検討中である。